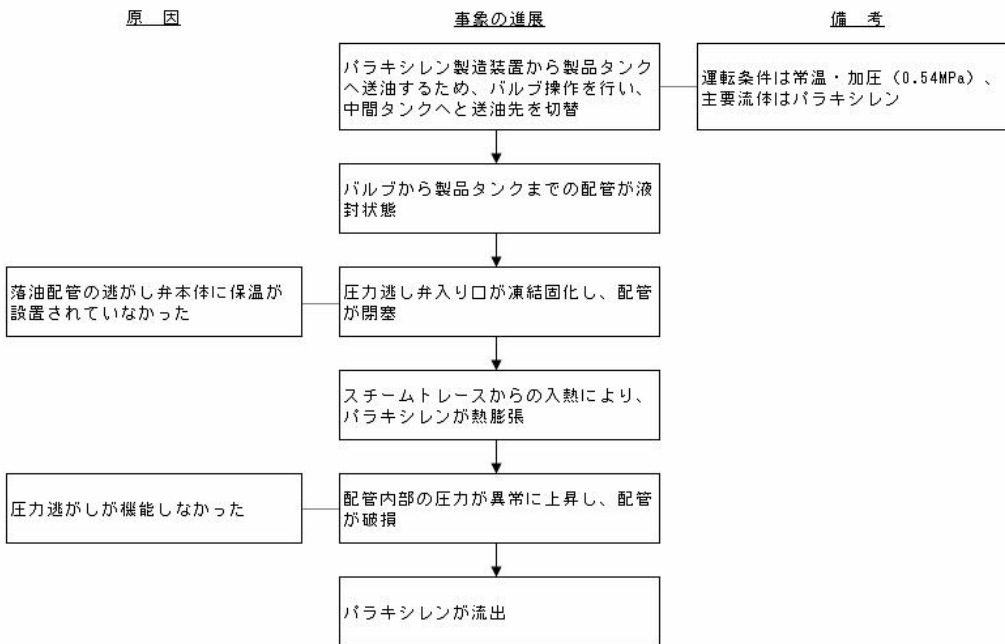




パラキシレン製造装置配管の液封による噴破、漏洩

事象進展図

00520	パラキシレン製造装置配管の液封による噴破、漏洩
発災年月日	2004年1月27日
装置	その他の装置（パラキシレン製造装置）
運転状況	定常運転中・ルーチン作業中
特徴	液封状態の発生と凍結防止対策の不備による配管の破損、漏洩



再発防止対策
① 逃がし弁の加温施工 ② 配管が液封にならないように作業標準書を見直し

安全専門家のコメント
軽質留分の装置ランダウンから中間タンクまでの間の液封防止対策は基本的に仕切り状態を作らない配管設計や操作要領にすることが重要である。特に軽質留分であるためにスチームトレースや太陽熱などの入熱量によりガス層が発生するために容易に過圧状態になりやすい。

引き金事象発生の原因
・ 逃がし弁入り口配管の凍結固化 ・ 配管を液封状態にした

事故の引き金事象
・ 圧力上昇により配管が破裂

事故に関係した直接・間接要因
《情報要因》 プロセス特性・危険性の評価・検討不足 《設計要因》 機器・配管設計不良



パラキシレン製造装置配管の液封による噴破、漏洩

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

自治消防

▶ 添付資料



[パラキシレン製品落油系統図](#) (29 KB)

▶ キーワード(>同義語)



パラキシレン



保温



凍結固化



液封状態



配管 > パイプ

▶ 関連情報